

## 2 「登戸」以降の跡地

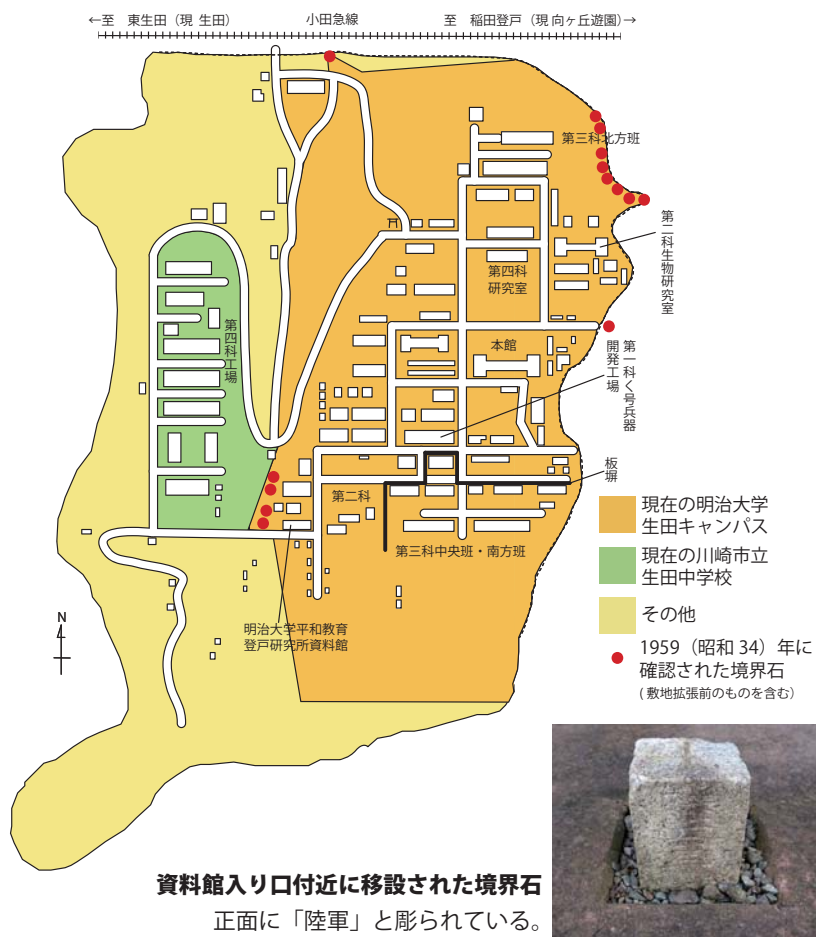
敗戦に伴う解散直後から、登戸研究所の跡地は様々な用途で活用されました。そして、戦後5年を経た1950（昭和25）年には明治大学がその約半分を購入し、現在に至ります。

登戸研究所は敗戦直後に徹底的な証拠隠滅を行ったため、当時の資料はほとんど残っていません。

明治大学に残る書類など僅かに存在する戦後の資料をたよりに、この場所にかつて存在した登戸研究所の姿を再現していきます。

### (1) 登戸研究所の範囲と明治大学以前

登戸研究所の敷地がどれだけの範囲であったのかは現在でも正確には分かっていません。それでも、現在の生田キャンパスの周囲で発掘されている、陸軍の土地の境界を示す「境界石」から判明したところもあります。また稲田郷土史会による、当時を知る人たちへの聞き取り調査などから、現在では、明治大学生田キャンパス、川崎市立生田中学校、川崎市立三田小学校、西三田団地などが登戸研究所の跡地に含まれることがわかっています。



#### 終戦直後から現在までの登戸研究所跡地の変遷

※国有地を使用（借用）

現在の明治大学生田キャンパス構内	1945.8 ~ 陸軍GHQによる器材等接収	引揚者寮 ※ 北里研究所の一部 慶應大学予科登戸仮校舎 武蔵繊維株式会社ほか 農業会（現・農協）	1950.5 ~ 明治大学生田校舎（生田キャンパス）
	現在の川崎市立生田中学校	1947.5 ~ 川崎市立生田中学校	1948.6 ~ 1977.3 川崎市立高津高校生田分校（川崎市立特別創作活動センター）
その他 主な周辺域		農業会（現・農協）	1961 ~ 日本住宅公団（西三田団地） 1971.4 ~ 川崎市立三田小学校

## ①慶應義塾大学予科登戸仮校舎と生田中学校

登戸研究所解散直後の跡地は一部国有地化されました。その間、主に、戦災とGHQによる接收で授業ができなくなった慶應義塾（以下慶應）大学日吉校舎の医学部・工学部・法学部の各予科が「登戸仮校舎」として一部移転、1945（昭和20）年10月～1950（昭和25）年3月の約4年半使用しました。

生田キャンパスと谷を挟んで建つ川崎市立生田中学校は、登戸研究所第四科第一班の工場跡地の丘にあります。この中学校は学制改革による最初の新制中学校の一つとして1947（昭和22）年に開校しました。川崎市多摩区内で、陸軍関連施設の跡地を利用した唯一の中学校です。

## ②北里研究所

北里研究所は慶應大学予科と同時期にこの土地を借用していました。（同研究所創立者・北里柴三郎は慶應大学医学部を設立、互いに密接な関係にあります。）明治大学が保存している「生田校舎<sup>ならびに</sup>竝敷地買収計画」（右下資料）などには北里研究所による登戸研究所跡地の建物借用の記録が残っています。また、当時「ここにあった北里研究所でアルバイトをしていた。小動物を飼育して（北里研究所の）本部に送っていた」と証言する近隣在住の方もいます。『北里研究所五十年誌』（北里研究所、1966年）には、戦後の感染予防が急務だった状況下で、数百名もの学生アルバイトを雇い薬品の開発を進めた、とあり、登戸研究所跡地ではその研究のための動物の飼育が行われていたと考えられます。



慶應義塾大学予科登戸仮校舎

敗戦まで登戸研究所が本館として使用していた建物。（慶應義塾福澤研究センター提供）

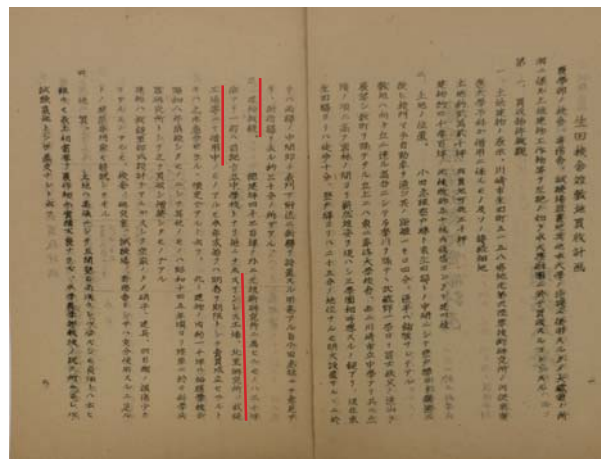
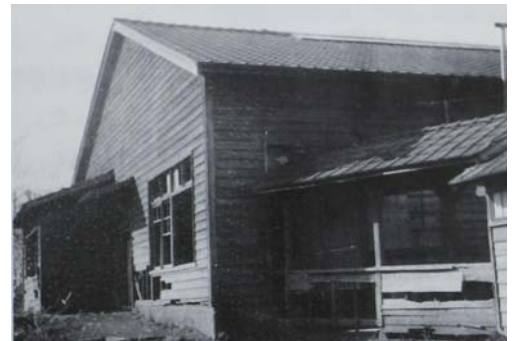


川崎市立生田中学校

「創立直後の校舎、  
内部〔左〕と外観〔下〕」

登戸研究所が第四科工場として建てた木造の建物をそのまま利用し、1947年に開校した。

（川崎市立生田中学校創立30周年記念誌『友愛』（同校記念誌小委員会編、1977年）より引用）



「生田校舎竝敷地買収計画」

左頁、傍線部「三、建物概観」に「…ステンレス工場、北里研究所、裁縫工場〔武蔵繊維のことか〕等にて借用中…」と記されている。「ステンレス工場」の詳細は不明。（明治大学所蔵）

### ③巴川製紙

巴川製紙は、戦時中に陸軍から偽造法幣（偽札）用紙の大量生産のための技術開発を依頼された企業の一つで、登戸研究所第三科とは密接な関係にありました。戦後も登戸研究所所長であった篠田鐮が1948（昭和23）年に技術顧問として招かれ、その後第四代社長になるなど人的交流が続きました。

登戸研究所跡地と巴川製紙の関係を表す記録は公式には残っていません。しかし、生田農業会の記録からは、慶應大学などと同時期に、元第三科北方班の場所を「巴川製紙」が使用していたことがうかがえます。また、元北方班の倉庫には、備蓄された偽札用紙と考えられる大量のロール紙の目撃証言があります。これは、戦後も登戸研究所関係者と深い結びつきのあった巴川製紙が、偽札関連の資材等を譲り受けて倉庫の管理をしていた可能性が考えられます。

### ④その他

明治大学の土地買収直前には、繊維会社の武蔵繊維株式会社が、正門の北（現・理工学部側、体育館付近）にあったH型の建物（明治大学の付番では75号棟）を工場として使用していました。他に、ステンレス工場による借用の記録もありますが、詳細は不明です。

## (2) 明治大学に残る 用地買収関連資料

明治大学は農学部設置のため、1950（昭和25）年にこの生田の土地を購入しました。

用地取得に関する書類は明治大学にも多数保管されており、中には、現在の生田キャンパスが敗戦時の登戸研究所の正式名称である第九陸軍技術研究所の土地であったことを明記しているものもあります（右上写真）。

「東生田校舎買収の件」（右下写真）では、土地と同時に、89棟もの建物、電気・水道などインフラ設備、プール（小規模な貯水池）を取得しようとしていたことがわかります。明治大学生田校舎は、登戸研究所の建物、設備を大いに活用しながら開設されました。



「元第九陸軍技術研究所要図」

明治大学が、生田校舎用地として大蔵省より払い下げを受けるための申請書に添付されていた地図。陸軍登戸研究所の正式名称「第九陸軍技術研究所」の跡地であることを大学も理解した上で校舎の用地として検討していたことがわかる。

種類	数量	備考
土地	100坪	生田校舎用地
建物	89棟	元第九陸軍技術研究所
電気設備	10000円	生田校舎用地
水道設備	10000円	生田校舎用地
プール	10000円	生田校舎用地
その他	10000円	生田校舎用地

「東生田校舎買収の件」

「元陸軍第九科学研究所跡〔ママ、登戸研究所を指している〕の土地、建物89棟、その他施設物件（4つの貯水池、ガスタンク、送水塔）を、合計14,500,000円で購入する予定であったことが読み取れる。この書類は払下げ申請時のもので、最終的な購入金額はこれを下まわる。

（ともに、1949（昭和24）年10月頃に作成、明治大学所蔵）

### (3) 図面と資料が示す「登戸」の電気・水道の設備

明治大学が保管している資料には、水道や電気設備の状況がよくわかるものがあり、これらから登戸研究所の残した設備が見えてきます。ここでは図面・資料とその特徴を紹介します。

#### ①「第二種自家用電気工作物図面（部分、36号棟）」

明治大学となって6年が経過した1956（昭和31）年に作成された建物の電灯配線図面ですが、建物内部の様子が確認できます。右図面枠内の「36〔号〕棟」は現在の資料館の建物です。部屋割がほぼ変わっていないことがわかります。

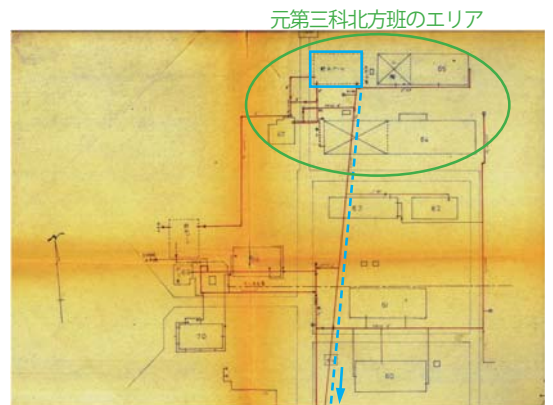


「昭和三十一年七月 第二種自家用電気工作物図面 第六号図の六 電灯配線図（部分）」

各建物、各部屋への配電図が記載されており、登戸研究所時代の状態に近い構造が読み取れる。

#### ②「配管図（部分）」

登戸研究所第三科北方班に設置された「貯水プール（貯水槽）」（右図青枠内）からは、押上管により、南側の給水塔へ揚水し、水が敷地内へ行き渡るように設計されています。



「明治大学生田校舎配管図（部分）」

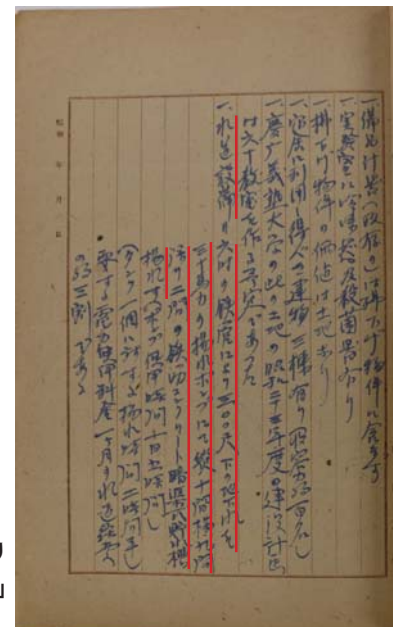
明治大学購入直前の1950（昭和25）年4月に製図され、1978（昭和53）年2月に複写されたもの。赤い線が配管を示す。

#### ③揚水ポンプと地下水に関する記録

配管図の記録を補足するものとして、1949（昭和24）年頃に作成された生田校舎買収時の調書には「六寸〔約18cm〕の鉄管により三〇〇尺〔約100m〕下の地下水を三十馬力の揚水ポンプにて縦十間横九間深さ二間〔=容積約10,500<sup>あんきよ</sup>m<sup>3</sup>〕の鉄筋コンクリート暗渠式貯水槽揚水す」とあります。この設備は登戸研究所が地下水の利用のために設置した可能性が考えられます。

『生田敷地建物買収関係書類他』より  
「在登戸地区視察記録（部分）」

傍線部に地下水の揚水設備の詳細が記されている。



(以上すべて明治大学所蔵)



## (4) キャンパスのうつり変り

明治大学では、登戸研究所が使用した建物を活用していたため、大学構内はその名残をしばらくとどめていました。現在の様子と照らし合わせながら、大学関係者が保管していた、キャンパス内で見慣れた場所の昔の写真をご紹介します。※各号棟名は明治大学による付番

### キャンパス内各所 現在の写真



①旧弥心神社



②中央校舎 (旧1号棟跡)

③ヒマラヤ杉周辺  
(旧登戸研究所本館 (=旧7号棟) 跡)



⑫温室側から見た第一校舎6号館 (正面左)と2号館 (正面右)  
(左から旧44号棟, 4号棟, 19号棟跡)



④正門



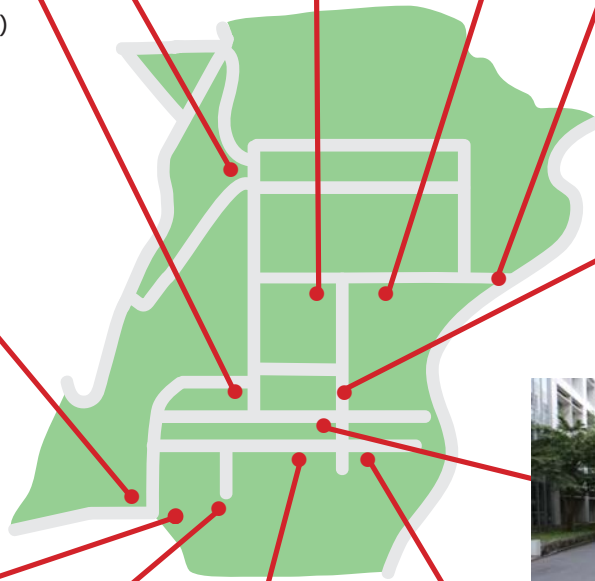
⑪平和教育登戸研究所資料館 (旧36号棟)



⑤図書館前の通り



⑩旧倉庫跡



⑥第一校舎2号館 (旧47号棟跡)



⑨第一校舎1号館から資料館方向の眺め



⑧第一校舎1号館付近西側 (旧5号棟跡)



⑦第一校舎1号館前東側 (旧26号棟跡)

(この節、現在の写真全て資料館撮影)

## キャンパス内各所 登戸研究所が残した建物が残っていた頃の写真



空撮写真

(撮影年・撮影者不詳, 明治大学所蔵)



正門 地図上位置④

(1950年代撮影, 撮影者不詳, 明治大学所蔵)



旧登戸研究所本館 (= 旧7号棟) 地図上位置③

南側から撮影。明治大学になってからは7号棟と呼ばれ、図書館などとして使用されていた。背後にヒマラヤ杉が見える。

(1966(昭和41)年 吉崎一郎氏\*撮影, 資料館所蔵) \*吉崎一郎氏の「吉」は土冠が土の異体字。以降同じ。



旧登戸研究所本館 地図上位置③

北側から撮影。

(1950年代撮影, 撮影者不詳, 明治大学所蔵)

※プライバシー保護のため写真を一部加工しています。



旧登戸研究所本館車寄せ 地図上位置③

車寄せ奥の表示に「図書館生田分室」の文字が見える。

(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)



**旧登戸研究所本館 (= 旧7号棟) 地図上位置③**  
(1990(平成2)年 木下健蔵氏撮影, 資料館所蔵)



**現・図書館前の通り 地図上位置⑤**  
工学部校舎完成直後の様子。  
(1965(昭和40)年頃撮影, 撮影者不詳, 明治大学所蔵)



**旧武道場 地図上位置④・⑤の間**  
登戸研究所時代には青年学校の授業も行われた。  
(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)



**現・中央校舎付近, 旧1号棟 地図上位置②**  
(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)



**旧弥心神社 地図上位置①**  
(1994(平成6)年 角田益信氏撮影, 稲田郷土史会提供)



**旧47号棟 地図上位置⑥**  
登戸研究所時代には大電力の必要な怪力電波兵器「く号兵器」が開発された建物。内部の空間が大きく取られている。(1988年頃 角田益信氏撮影, 稲田郷土史会提供)



**旧26号棟 地図上位置⑦**  
(1994年 角田益信氏撮影, 稲田郷土史会提供)



**旧5号棟と旧44号棟 地図上位置⑧・⑫の間**  
奥は明治大学が建てた校舎(現在は建替えられている)。新旧の建物が共存していた。  
(1990年代撮影, 撮影者不詳, 明治大学所蔵)





**旧5号棟 地図上位置⑧**

(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)



**旧5号棟 地図上位置⑧**

(2007(平成19)年 撮影者不詳, 資料館所蔵)



**第一校舎1号館から現資料館方向の眺め 地図上位置⑨**

左端, 屋上に三角屋根が設置されていた頃の現資料館建物, その向かいに, 現存する貯水池が確認できる。

(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)



**現・資料館付近 地図上位置⑩南側**

右側が南圃場, 奥が第一校舎1号館。中央の二棟の建物は, それぞれ, 手前が住居, 奥が倉庫として使用されていた。

現・西南門付近から撮影。

(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)



**現・資料館建物(旧36号棟) 地図上位置⑩**

明治大学により屋上に屋根が設置されていた時期のもの。南側より撮影。

(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)



**現・資料館付近 地図上位置⑩**

(撮影年・撮影者不詳, 資料館所蔵)

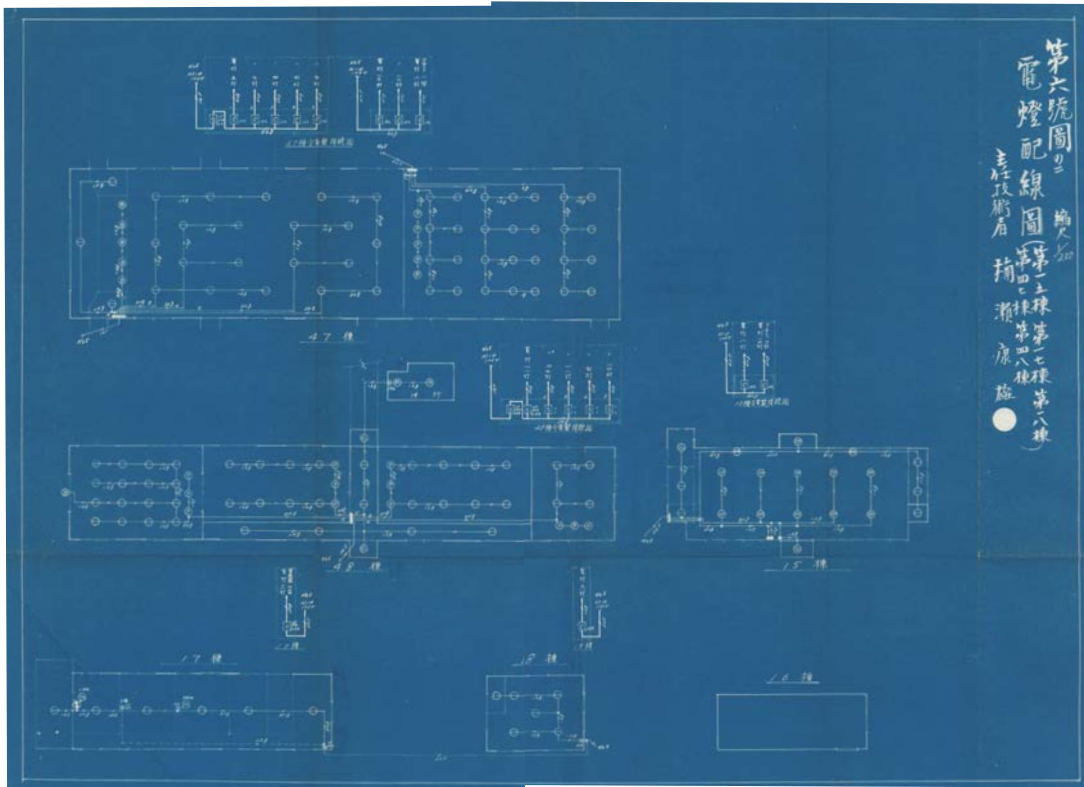
※プライバシー保護のため写真を一部加工しています。



**旧倉庫跡 地図上位置⑩**

(1966年 吉崎一郎氏撮影, 資料館所蔵)

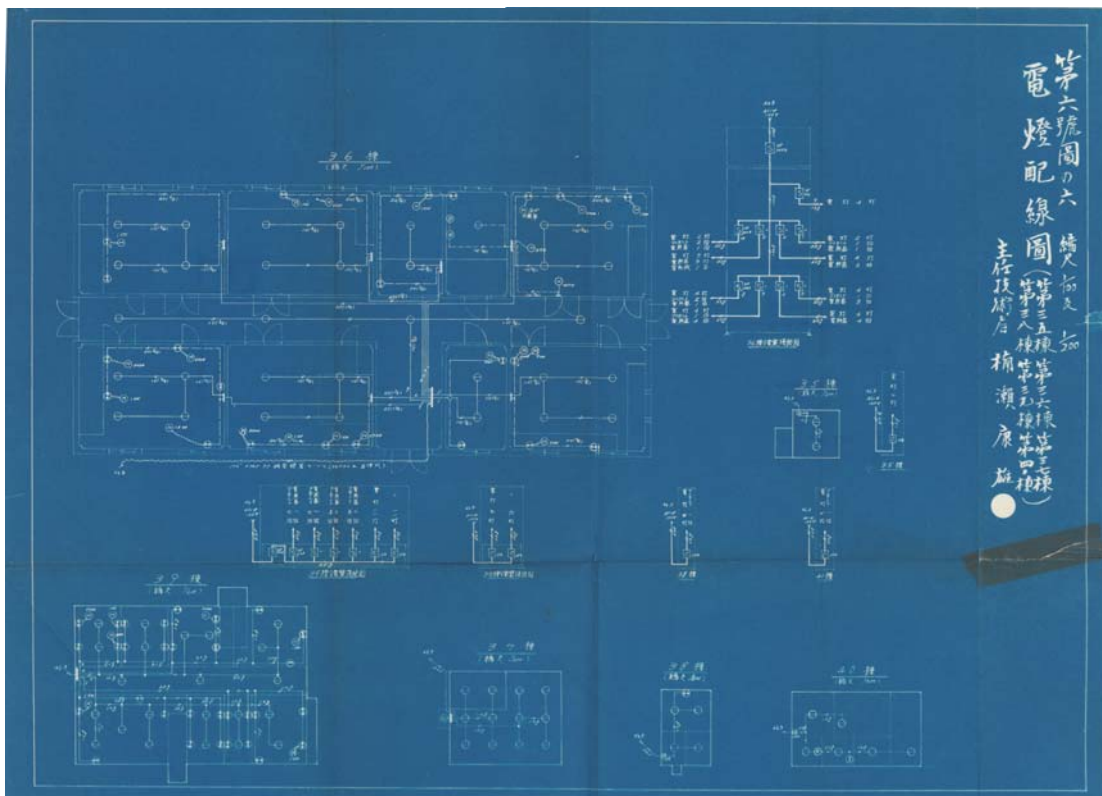
【展示資料】



「昭和三十一年七月 第二種自家用電気工作物図面 第六号図の二 電灯配線図 (複製)」

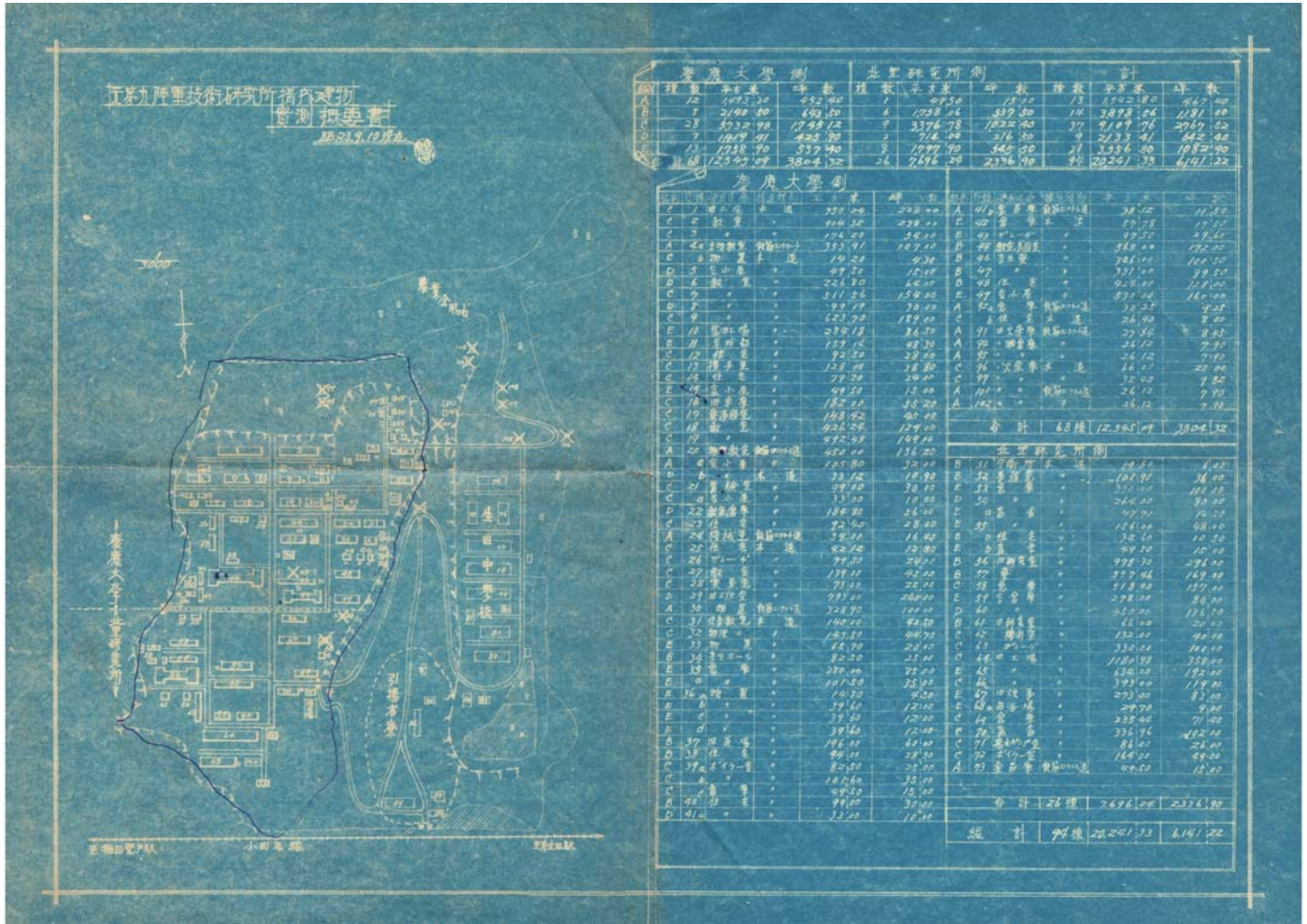
第 15, 17, 18, 47, 48 [号] 棟のもの。うち、第 47 棟は大電力の必要な「く号兵器」が開発に使用された建物。内部の空間が大きく取られていたことがわかる。

(明治大学所蔵)



「昭和三十一年七月 第二種自家用電気工作物図面 第六号図の六 電灯配線図 (複製)」

第 35 ~ 40 [号] 棟のもの。うち、第 36 棟が現在の資料館。当時の部屋割がわかるが、暗室のクランク式入り口の図面化は省略されている。(明治大学所蔵)

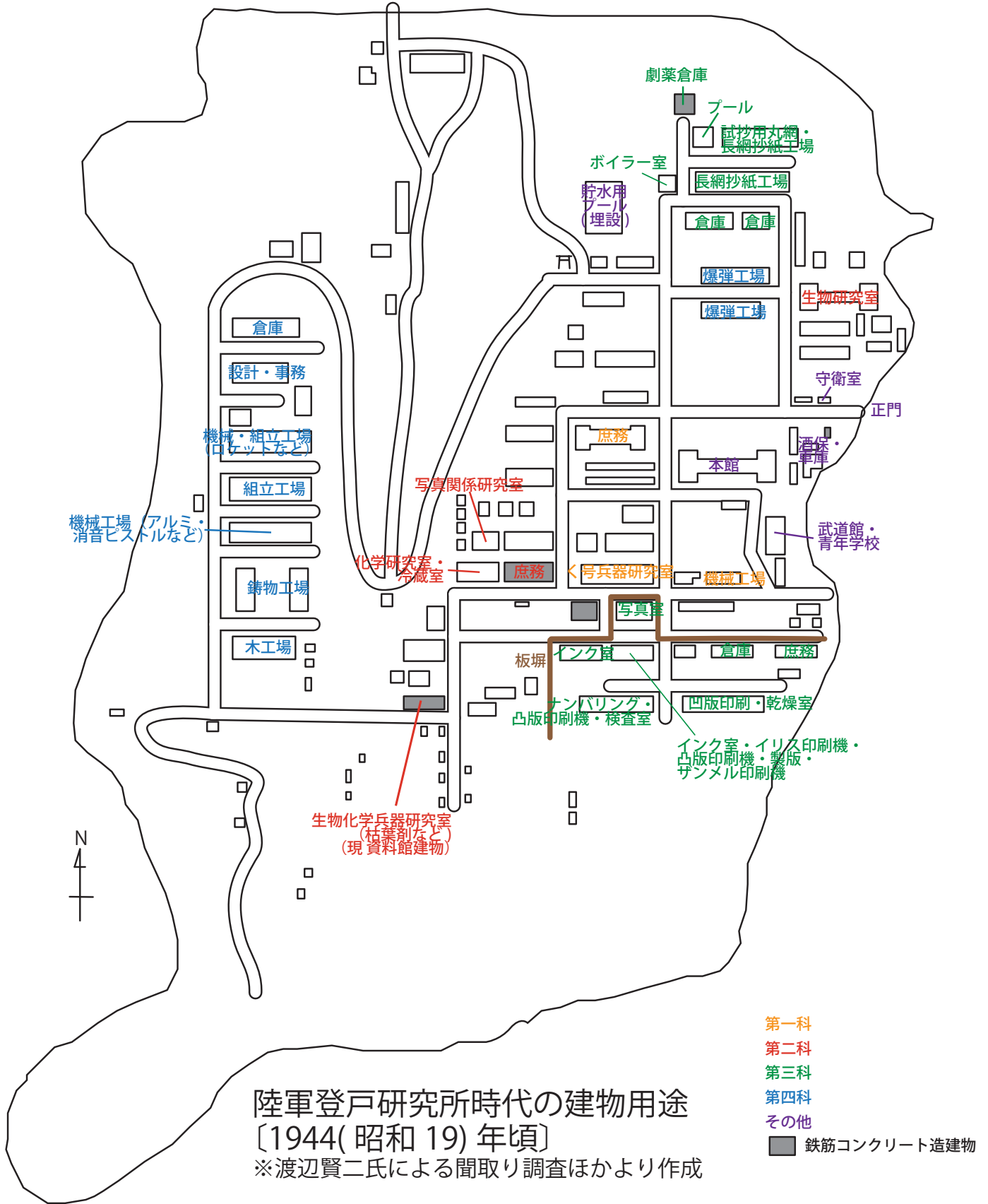


「元第九陸軍技術研究所構内建物実測概要書」(複製)

現存する、最も登戸研究所時代に近い時期に測量されたもの。建物の使用区分、構造種別、広さが併記されている。号棟名は、後年、明治大学の付番と異なる。(上塚芳郎氏提供)

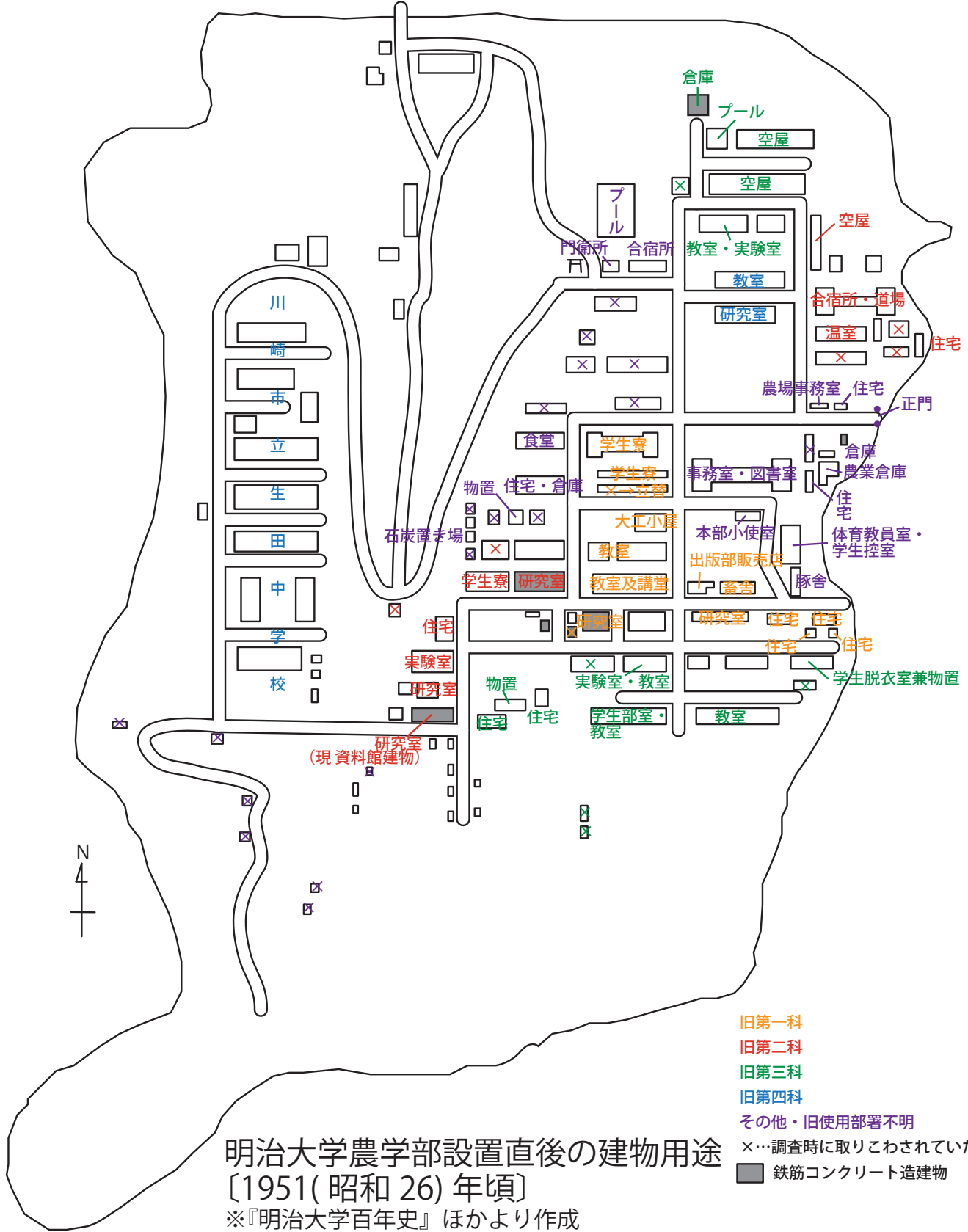
【参考資料】

←至 東生田 (現 生田) 小田急線 至 稲田登戸 (現 向ヶ丘遊園)→





←至 東生田 (現 生田) 小田急線 至 稲田登戸 (現 向ヶ丘遊園)→



明治大学農学部設置直後の建物用途  
〔1951(昭和26)年頃〕  
※『明治大学百年史』ほかより作成

- 旧第一科
- 旧第二科
- 旧第三科
- 旧第四科
- その他・旧使用部署不明
- ×…調査時に取りこぼされていたもの
- 鉄筋コンクリート造建物